信材房

へ 5
4111

4111

家に住校房のかくし名あり
あるいは師の生りつれにあり
けるよりてあるなるべし人
の賢徳をもて有聖の家とする
ゆゑなりしかりけるをもて
うしろ今をもてもてあらはす名
のうれたる師恵の称に道と

昭和十一年一月十日
佐藤忠三郎

ゆかしく旅装り飾とおもひ
せうらの秋

桜ま海うら名や旅風の
さ川日より

往杖坊

餞別揺六ヶ所

新潟　松韵洞　加治　雄可亭　水原　君子庵

小河原　左柳亭　檣越　万花亭　新津　大径庵

鳥原　桃笠亭　五泉　市仙堂　加茂　鶴鳴亭

饒田　一合居　大面　五雨亭　小須戸　朝暮居

赤泥　一瓢洞　井栗　鷹峰規　中ノ島　暁山下

與板　長北井

[illegible]の間十余ヶ所の舎人軒
[illegible]のうちわかりてうつされくもを塗と
いつれうり笠か単雑の語と引たん一
おなじ笠の者迄と思ふ

海をしらを尾とよもす雲雀

相模よりくる竜馬の後と為る
今ふりかふれり

ちりなの指やよ待のとの中

[illegible]と詠る

[illegible]と光れを詠ふ雲ふ

[illegible]面とを開りよ者を[illegible]心を氣ヶ関うり
[illegible]ふりて八十余里越後の地より堤り
[illegible]の[illegible]を背ようんをくりを
[illegible]と[illegible]信濃路ふ入ちりをー

おかんとふとうしろに[illegible]を
[illegible]

信濃

善光寺にて

松も証歌の名ちり名所

仲秋のまこの信濃路をとるれハ姨捨山と光
姨捨の月とゑんとハ惜村ゝ姨捨山と光
哀れ重夢さらく光来ちよこの今育
の月とゑんとハ遠境近星より侵し
まれるくのんといく所ゝむるに入遥る
此暗ゝるくく月を鏡屋山のいくよ

ちりしやりく姨捨山むこふ秋に入
科川ちらちるこくく名よあ山田毎の
月を哀四ゑれまく稲とかくれを清光
の教徳波みくのんてゑにやりしむる
姨を捨ちる法を今も往の蹟をひしく
七夜の遠星八をて物ゝ名をとゝむる今
育を仮家の名をれむへおるもあくを
家ゝをくひちよ月よあくく人
ちを法をるくし

姨をてのを本みむやふの月

松本の城下に入る

松ひや玄幸の書ふ人通り

ひらとりの所より樊川の驛に入るそこより木
ゝとつゞく四面山々かさなりて峯ゝ
雲にゐるさて谷川壁とそこそこにして
のこりなく右左きくたゝ名にあり木曽
の橋を所々にありてちぬをぬむとある
ゝもうきとつるんはたんちんかる籔に
ゐるかのゝゝ山寺とゝんて谷のきへより馬

奈良茶屋より細とゝ久くゝ山にゝふ木ゝの指
曉ゝ雲ふゝ白くはきくゝ陽ひくゝ雲聚
とゝんゝる山中の紅色ゝふゝゝ

一ゝ

深沼ゝゝ一宮川、に雨降る

落合ゝゝ所ふ美く信濃と
黄陰の国境ゝゝ

かちあひや体ゝ本陰にゝゝ

義法

かるとしてゑけ居みんより筋堂れ師ま
ゐと窮あれ行路子室のんけるんりけ
ま他門の他士とゐ〇く漂伯の位ゐ
そへきゐゐゐるすの義ゐんゐけあと
ゐの巻ふおれてく表会のんあも宜省略
ゐるゐゐ部て此巻の巻ゐるけに
孤森の位とあとゐゐゐ
ゐの鴻ふ林に同りん月の秋　行紅

ゐゐゐを媚ふ寿のをり釜　五竹坊
ゐあくあ巻ゐ草ゐよも萩の形とはて　東風
ゐゐを掃ふて余不ゐの埃　蓼明
まとあれ形りて昧のいごゐく　摩紀
m孫はもかゐあ仮り搗　宇紅
越の画一ゐ人の筋業り師ふ
ゐゐ
ゐのゐあを拾ゐ今を杖の孤　五竹坊

小野　山絲郡

黄波大田の驛より関へ出る山絲郡小野の郷
是大智寺の境内に鐘塔と称する
詩あり　まらう彼皐月と題て貞恵
の哥ふもとの

鐘塔に題する

松枝や年ふるうちに雪も降
ぬるしてふ東羽二を人の
安逸に賀し且年命を祝ふ

もこやるる松や眼鏡に菊のと　洋紅

検査所くく松の木の下　六芝

望拾ひに作りを乞に月行く　東羽

うゆへきうしうの松書で至　雪人

載ふ拾ふくをのものつれ　分斗

姫のきうむと参て松久　淡左

西ゟ行と思ひたつれ　越の海路
のなごと言うの草庵にてめしに月の
まちつゝ海ゆくをみのうらうらとして
人の行遠ゝ海路の花ゝとやつゝ
んと弥生も尚たつをのうくゝ

とゝ山ゆ忘れてつゝ　六堂

月と友の旅やゝ星も新つゝん　東羽

波阜を春秋紀行書

書る筆の拙も好し　福来山　許白

かゝぬくまてみつゝ月の友　帝を

船をよせのの松の影信濃ゝ　磐城

搭ゝをいれハ石の苔　所　香調

旅ゝも茶の釜の試乗ゝ　東彼

桂ゝこゝの星もゝゝ　全牧

西国行脚に赴きける小紙の
洋紙にて送りける

箙紫式部に由るおれる　俳を

ゆり路もむ見送るもどせるよ　蛙丹

大垣を抛流下る人と易称ておくれる
のやうなる吟しに其にゆきひ
今てもこの月の秋景と奥ゆる

陳あけのおくやみに伝肥川　洋紅

和を合点の白湾も蓋れ　隆五

座主の祐ふ月も雪伝て　羊茲

蓑笠なるし何ぞ行　李雪

伝えへあれる京て近れと　日周

山柏化る　牛も　合　烏六

尾張

[illegible]

許白

[illegible]

昌阿

[illegible]

[illegible]

[illegible]

宇考

[illegible]

雨寿

[illegible]

都西

以之[illegible]人の閑居を訪ふ

許白

[illegible]と呼ぶ[illegible]菜の垣

月[illegible]板[illegible]ふ[illegible]の[illegible]あ[illegible]

以之

[illegible]代[illegible]の[illegible]倒れ[illegible]

十固

[illegible]

五馬

[illegible]陽の[illegible]ひ[illegible]物のあら[illegible]を

十會

[illegible]

[illegible]鈴の[illegible]ひ

鳥甲

小越の画一幅仕幸八月の容さまり
うつし八名僧西隠のうつし と賞の
尾張みちうつし

うつし深山を不こも唐詩　幕渓

画一幅人の僧陽行とかける
海ちよあうたや孫肩の月ゑを　以之

小越の洋紙子と藝田の
海ちさに送りうく
名書にかうむや舟の
うつろ紙　昌河

伊勢

業名に帆下ると云て五十五百余里を
信ノ吉ちもこ吉ひ舟もる交情と
かける

咲うくうくれぬるとまのむ　洋紙

四海の叫ぶさく月の声　帆十

一去さりやんと作のゆくうちく　雨塘

網代屏風みえぬ曲雲稽　麦士

ふるかくる果報と行もえの悲さ　宇均

おうぎふせ話る祖畑の鳩　醉丈

箕笠の秋のうけるる武の画一人とえ返り

風流の笠義し野うまの叫　帆十

舟の旅りてんへ名をうりる　雨塘

嘗ふ吠ひあり義の旅　麦士

来名ようり家宮のうをうと聖とふ

所と者しうう

稲屋のム空や月のあるれ

月月ちう渉と渉しする

笠ふ係ふ旅のちりや荻の音

八日伊勢より京へ出ぬ津へ
着しとく九日へ
堂とも絶くこの路も四りくの茶
水口へ着ける
うんおろしとくしとはりやあの月

義仲寺
義塚へ詣る

遠く茶の十日や義塚

京都

橋治亭に着くそこの旅宿れと体め
夜の月を例の二階座敷よりてちくれ
京山と云む

九日に出ぬとく着し
十三夜

盤亭うんうんさえぬく
雖うれ西山に移る　作如

初さくらやゐるなの　語ひさん

あさくさて　風ふけ酒ふ　之風

月もさはるる　教えとて　山兵

あ忘れけり　年ふ　中ふれ　帝く

山側ひさ　茶ひらうへぬ　小性　流　惣鹿

さくらの　屏風　御立　谷山

新の画一うんの西山門作と
送り

りうんさうれ　徐の山語　多　山口

伊校場と名　系うの画一人と送り

夢ゆかる校　さりてうう　張校　之風

うん送りやる　尾とりけて　笠の時　竹之

古京とゝく東福うゝ
通天の石墓とゝの
僧ゝり廊下とゝぐるゝうゝ
佐ゝうり永西寺ゝ

之ゝやゝ浪ゝうゝ西寺月

榜書

那波ゝ豊臣亭ゝ者ゝ人ゝ百ゝ
絵角の文ありて二百里と伝ゝる五の
ゝとかゝり

ゝもいゝゝゝ仏合八ゝ佐の家
ゝ書ゝて紙ゝ年ゝと伝ゝ
柳侯ゝと云ゝ

佐ゝりゝの屋くれや佐の家

詠の許詠るの強者と訪ひく

俤猶の雁や深く鳴くばく　梅徒

強盗屋む声の濱風　許詠

住吉房の龍紫竹伴を祝ふ

松と云く手筆の陸や乙る紫　宗古

尼ヶ濱

新入や猫みかりよの尼ヶ濱

夜の首金丁尼ヶ濱より一里半西丁

あくりてと云れ今津の人くと

居くく

ふ志くと笠や紫ふるの乙ふ

越の住秋吉の笹とそ先く
他後れおくらす

南窠

山国と思ふ通さ〳〵九月雨
うくろの駒よ ゆくて 雲 浮雲

暮かゝる雨もよいさらぬ法
雨も塗るの曲雲よも加減 舟舟
雲の天上をも飽めゆく月よ

ふゆはたん窠の雲よもと深く
後ろを降ねく高北行山家 記
行も居日よ雨ふる蓑人 蓑
文弥のむしも分の降ふりし 笠
ろうし法飯よ雨の元やり 法
懐紙しのふ〳〵四町の飛舟
高まく雨の旅もよ金千

けふ浦ゝを去りの入日の名ゝ
〳〵西春坊のむ〳〵をむるの
境ゝ化粧ひ左所の中ゝを
ゝの菓のゝゝ
風雅ゝ
〳〵えられ〳〵教ゝと
送る

和詩　五言律

非を月　ゝ〳〵し今　宴ゝ〳〵　舞ゝ
秋ゝ酒ゝを　ゝ〳〵ゝの　笑ゝ〳〵ゝ月ゝ言
玄里のゝゝ　ゝめられ　广邪ゝ嶽のゝさあ
笑られて　ゝく　ゝや　ゝゝ

[illegible]月[illegible]ありし住吉の[illegible]
とゝ[illegible]
[illegible]の情と[illegible]

西宮

[illegible]月千
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

今陳の人々[illegible]
[illegible]住吉の[illegible]
[illegible]
[illegible]住吉の社[illegible]別の一章
[illegible]

住吉の社やうの[illegible]

[illegible]庫より姫路迄の名所いさル行の年
の行ふ者もあれハ此さくらの
しぬ今百い[illegible]
[illegible]

高ふ[illegible]ふ濱をはるひやけ[illegible]

播磨

[illegible]を[illegible]ふ丹孔亭と号ハ
[illegible]し[illegible]合あ[illegible]み社丹

高[illegible]坊の門[illegible]越の[illegible]人
[illegible]ふ

[illegible]の[illegible]おくれてはいさ[illegible]　[illegible]
[illegible]も[illegible]の名[illegible]　[illegible]

[illegible]の[illegible]
の[illegible]越の[illegible]人[illegible]

[illegible]　史幸

[illegible]の一[illegible]
[illegible]の[illegible]　[illegible]

[illegible]の主[illegible]れ[illegible]て[illegible]住山不語て

墓塚と[illegible]

墓塚[illegible]て冥加あり[illegible]

此塚を越の[illegible]墓と字[illegible]砂羅の墓也

と[illegible]の父子山の[illegible]

[illegible]の碑あり其銘[illegible]爰ハ古字の[illegible]

[illegible]砂羅の木像と安置[illegible]

[illegible]の走るかり[illegible]の遺物 杖

笠 書 [illegible] 空襄 コヨリの[illegible]ハ湯殿

山禅定の時の臭[illegible]下[illegible]谷の[illegible]

小有しを惟然坊より[illegible]

書写山不語[illegible]休堂[illegible]

[illegible]て[illegible]の[illegible]字の山下風

俳茶

俳茶の号山[illegible]て孫四[illegible]

七達のつ[illegible]れ[illegible]

茶山[illegible]の[illegible]休めし[illegible]の[illegible]

越の作紅子同門のもとをとふ

同

同しゑの中をもとしらぬ白しらぬ　豫四

四月のうつりてもうすし　杉の松　作紅

あらの松をわけ後はうつるれく　未錄

はるかにもあるかの人　秋川

戻りかを富てあらふ音の月　松五

新田も絶てを業の苔と　苔三

姥ふる厳も入紅のうつろ陰へ　同山

廿六つをうれて白祭ぬるぬ　喚成

菜の頃くるるしつ解さを　素白

廊の襖と中者　みぬく　松平

ふるとうと掃と立うを墨　橋琴

緑ぬ縁りのあるかうろ　山月

岩山と立のうを吉備宮の二宮と詣をを

吉伺こゑしを伺おと伺中あるて見る
きびの中ゝちまるぬくきびの中ゝと
讀る細谷川を今し細谷流れのゝちて
吉さやうちうそと伺おの伺中の玉境ちる
うゝ

すぐぬく細谷川ゝ神水

伺中

金義よりてうちて百姓ゝと云ふ今ハ隨二と

ぬく伺諸も君をくひちくるにちく
ふのんちうしちうゝ川ふ白しお伺
居ちうゝ

永ちもかくてうれくあ蕎

越の浮記ふ和みとのゝとちうれく
首尾吟とくちうゝ

隨二

ひきりや猪戸の作も系のみちう
常ちよのちあるちゝ君 浮邸

[illegible]ゝもて伝うけうして　蓑雨

[illegible]ゝひろも今こやり深　佳邑

十四あの[illegible]ぬ姉妹　柳釜

松宮の名をきゝぬ四ツもし　芦錐

賛[illegible]も不の[illegible]も拾よ[illegible]ゝ　弘

余[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ　二

[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ　邑

[illegible]ゝ鳥の[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ　雨

[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]の　雁

笛ふ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ　一

[illegible]村の[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ

[illegible]京や松も[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ

越の[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ

白菜もあうむらくものうとゝ

聞り　恋むらと　恋　詠

鴨方とつよ而

ちゝやオとうき　旅の表

会ちうしうせられて可瑞ちゝへの許ゝ者

おうむうし東義師の松伊ゝ他名とを

ちんしくちゝと入ちうて首白しく

文ゝゝ家ゝ之代の風雅と作へて東花師

野坡ゝ之金ゝ之後ゝ之場の金袋逗

留のうちゝ句深とを嘉て親切ゝ

しも近年のゝ俳の流りくゝ絶く

今ゝ連ゝ之ゝ作ゝ之ゝ深ゝ以ゝ俳ゝいれゝある

ゝゝとゝゝ言ゝ之ゝ作ゝ之ゝ以ゝ俳ゝ今ゝ育ゝ俳

諧ゝ之ゝ深ゝ深ゝ深ゝ深ゝ深ゝ深ゝ深ゝ深ゝ深ゝ

ゝゝ辞ゝ之ゝ深ゝ深ゝ深ゝ深ゝ深ゝ深ゝ深ゝ深ゝ

木の葉ふりうきと白げるやゝあけ旬　可瑞

墳丘の乳のおもゝ　沖記

学問よりもまことを作ふるべし　可琢

恩よりもやねと絶計のもゝ　松助

月行の月ちゝ[illegible]ちゝ　沖

あゞ[illegible]入を盗ふやちゝ　渥

[illegible]秋も実は祖父のちゝ　助

嗜ちゝ[illegible]て[illegible]も　指垣　術

この弟[illegible]ちゝ故実の絵の表　渥

ちゝ信さ[illegible]ちゝ[illegible]ちゝ銭の替賃　記

永のちゝ[illegible]の[illegible]ひふ[illegible]ちゝ　術

詩の[illegible]ちゝ今ちゝ　絵　[illegible]

後後

可術ちゝ[illegible]て後の福ちゝ

中西氏ちゝ[illegible]ちゝ[illegible]ちゝ[illegible]

を以て[illegible]られて秋さの名所也――の中山
鄙らをいふあり

夕霧の[illegible]樹下もとり――鄙山

鶴の濱水楓詠ると云へり

波のをかすの草もまさらぬ

越の海白川人ふ拾ひしく

紅色むすらやさの神原に　楓詠

暮るふこころおかあり　仙洞

鶴と竹の例の深らしく居るへ

の紅よ素かくれらはるてあるめ

さるらけあるら細の書と書と指

と長つて分のあやしよと思ひ出る

業の分下ふけく悲しきあらさ海と

秋絶の言きくやなのうとサうふ

觀る

三原に着きぬ
是より又〻巨嶮の山路なり

藝州

六月朔日三原を立て溜村より隣郡に
越る坂ハいと高嶺にあらす比る安藝の
海山乃け廿ん隣郡山にいとよし是を見る
こゝ多高嶺なり

扨島や山路遠れ出で外の景

此所より廣島の城下とる道は北に
而より優郡を出て厳島に至る所に
隣れて海の西見八る沖の方能美の島ハ
十二郡の縁り数を記し儀ハ大野山四
十八坂の高とうしろにして南に
打帰し和風帆に入て四里余りの海を瞬時に
厳島に至る されよ西海一の名區にして
其て比ふ及し致景なりし今もて云語り

玉緒の流れ霊無莫とうえん白鳥彌
山小佐と伸ふる　るるき神佐の音沼とる
るるる

あれ草にあるとおしりの　巖佐

国防

宮佐より国防の岩ふみたるるて
ゆるる逗佐とるる
佐佐やかへかるるるるる音の
越の汗白るるるれるるるるる
言いいひやるれ　笑云
不るる秋ゆる音ひるるる音の音
あるるの稼し　越の　笑叢　汗郎
るりあへあ稼音玉阿玉砂るて　汗南

夢語のうちに 仮りの浮り初 云

りゝかゝに奥ゝをゝ仮ゝ月あけ 白

嵯ゝ山もる 涌ゝ 南

ゝ代の外ゝと 云

思ひとゝ 即ち一日 白

散れとゝりかゝとかる 爲の会ゝ 南

陰ゝ不ゝ ゝゝんゝ ゝめ 云

ゝゝ今 ゝと陰ゝ ゝゝ 白

ゝゝ ゝゝ ゝ代の 南

京月十日 ゝ ゝ ゝ

遠く通ゝ ゝ ゝ 観音院 ゝ

ゝゝ国 ゝ 中南 ゝの ゝ ゝ

琴 ゝ ゝ ゝ ゝ 松の ゝ

清 ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ 茅 ゝ ゝ ゝ

[illegible]戸や梅[illegible]の[illegible]笠ひ　升東

[illegible]のらるおかけ[illegible]

[illegible]る[illegible]の[illegible]と升南の法

[illegible]

[illegible]国や今則松に[illegible]の[illegible]

[illegible]あ[illegible]り今坂七曲り[illegible]の笹[illegible]ひ

[illegible]田舎[illegible]

[illegible]

[illegible]れ[illegible]祖[illegible]

[illegible]の法[illegible]れと[illegible]

[illegible]本法のひん

馬[illegible]通[illegible]の[illegible]　升南

[illegible]と[illegible]

おもてうしおぼくものあり天よる　白樹

白雄より別除やきさうして庫　洋白

ゑとつて又平ゝ書く

白雲のたゞたゞしれや雪の蕾

一日就の洋白よりとゝえんく世あるものの

名所味とりてゝ

琴聲やゆきむかのうよ庫ゐ岩　曙波

ゐるく特よ　音の下　居洋白

白雲うり徒らに越へく歌路亭と名

おもこゝ東座敷　所秋の二集ありて此地の

人くのこゝとゝ行ゝありと識ゝ世二集ゝ

又年来ゝて撰いきうしかく逗遛

又批判ありて風雅の交りの秘へよかう此

交の切持の侵ゝゝあれゝまれゝ秘ゝゝ

角日記ふ徒山の名よ弁しく吹浦の辨
あり家所ハ所ぬ他説を新しく鑽詞の
説文とおされしてそれらのしろ稽あれ
ま雲ふ十論の一理をゆそろしと扇語ま
の別荘よそ[illegible]られく

高砂の添るちしく や言の葉

越の住秋坊の笠をありうて

信て祈て森てりそそやけの号 扇語

言の日越の西一人と原を

撫花とうしろよもるる言ふうま

花図

まをを秋しるむせ しく 緑 許 郎

よそ元を雪ぬそうや会入く 扇語

仕舞ふ 浪り 掛ふ 貴 和 文 星

あおを大しく月の育ゆり 紙 法

格も 紙 路の 百 星 一 日 柳 子

見比べて猥りの お撰び 之奈

拙き筆ゝ之の女子 如祢

何ゝと只つまらぬ仕者 和水

さらくらさるも面白 文汲

うんちくも素人のりしたを帝月 辛要

一 鏡墨くめ俳の世の中 琴巻

長門

赤ゝ角ゝ暴式亭を乞く

拙み恨の熟色浸るや 為

宝ゝ之百金墨を乞ゝ

年代文通みちくさ しみあん

書ゝ紙の汚れるゝ乞れく

白うさやかさ祢くくゝゝ在舟

孫よ例代の盞も言葉　許白

うゝゝのあれて業陰の紙うて　隻茶

たゝもるかの尾もうさう　麦仙

枝の雪たゝれて月のうゝ　文海

毛ゝんの毛をみ待ハゆうち　鳥翅

代の居うけを遠よ　ゝとゝん　湖白

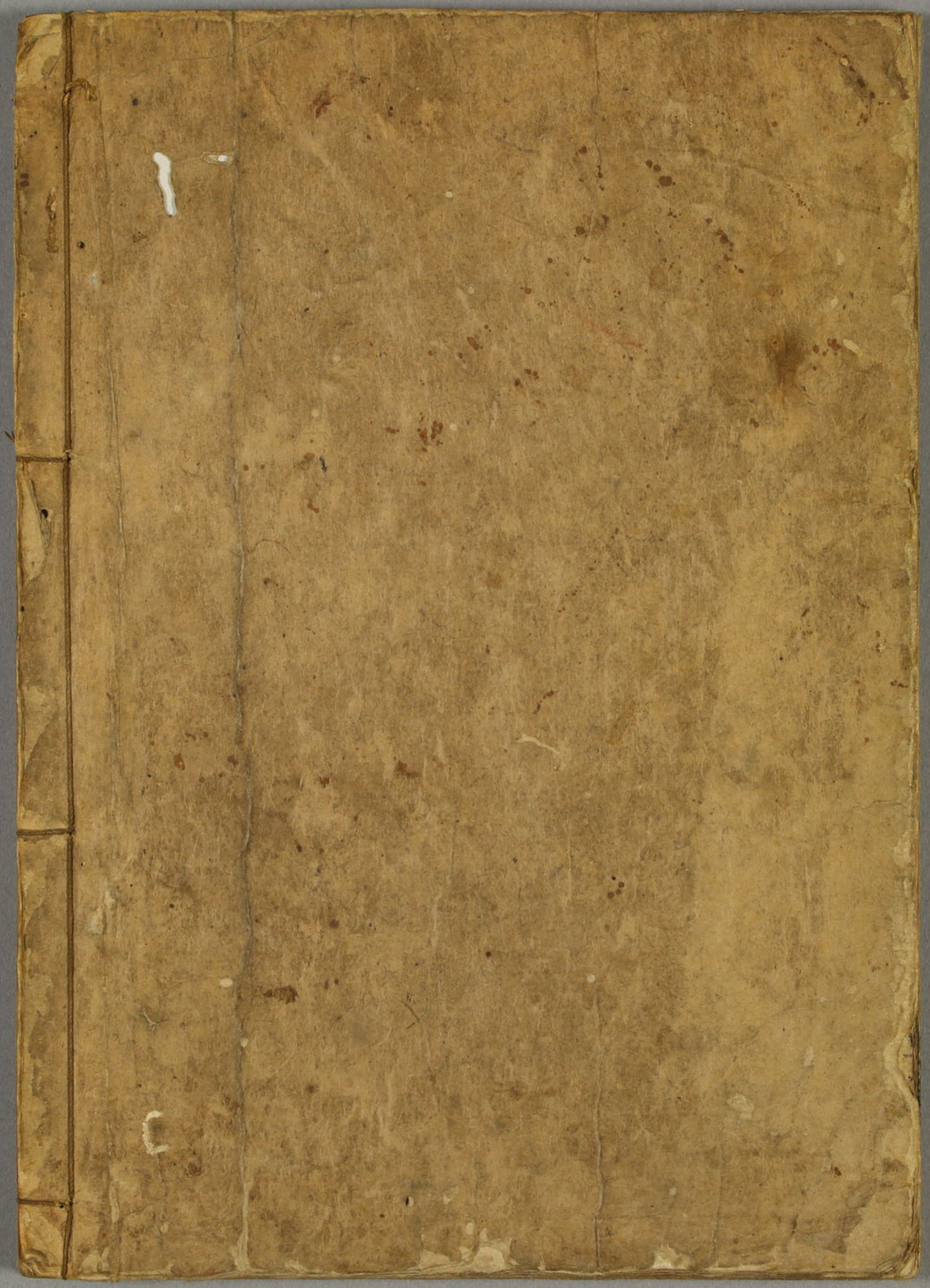
油の抜りを拂よう　岳式

陰のたゆ炊んたさめう　紙うゝ　白

塩色よ　言の鑑をまんうゝ　等

云条のむよ融のお和義　仙

四てんうれて　荒　言　俳

平家盤をうる

むうゝ号よ鬚のお者よ赤家盤